



陸普 副官ヨリ陸軍技術本部長へ通牒

首題銃十一月二十日附陸夜本甲第七五八號

上申ノ通定メラルヘキニ付該図面(概銃共)凡

記ノ通送付セラレ度

凡記

一、イナ式七、九粒輕微開銃

一、エロ式大型拳銃

陸普第七九一六號

昭和七年五月七日

右送付アリタル後凡案決行相成度

陸普 副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒

首題銃別紙図面ノ通定メラレンニ付該図面

凡記ノ通送付ス

凡記

一、イナ式七、九粒輕微開銃

部

一、七〇式大型拳銃

部

陸普第九三八號

昭和五年二月十四日

關東軍行ニハ右ヲ左ノ通作ルコト

左記銃別紙図面ノ通定メラレシニ付該図面  
(概説共)別紙配賦表ノ通送付ス

左記

一、七〇式七九口径機開銃

一、七〇式大型拳銃

附屬品送付済

昭和五年三月二十二日



考備	航空本部					第一飛行集團	監部											
	航空技術學校	航空整備學校	東京航空學校	航空支廠	航空本廠		技術研究所	本廠	教導學校	防空學校	戰車學校	習志野學校	自動車學校	重砲兵學校	野戰砲兵學校			
	關東軍					台灣軍	團					衛						
	奉天	牡丹江	哈爾濱	新京	野戰兵器廠		兵器部	第八團	第五團	第三團	第二團		兵器部	出張所	出張所	出張所	兵器部	氣球隊
	一	一	一	一	三	一												
	海軍					北支那方面軍	軍					滿洲國						
	支那	要塞司令部(除羅津高麗)	第二十一軍	支那派遣軍	支那派遣軍		第一師	第十一團	第十一團	第八師	第七師		第四師	第二師	第一師			
	一三八			七	七	七												



陸技本甲第七五八號

「チ」式七九耗機關銃並「モ」式大型拳銃準制式  
制定相成度件上申

昭和十四年十一月二十日

陸軍技術本部長 多田禮吉

陸軍大臣 畑 俊六 謹

首選兵器ヲ別圖ノ通準制式制定相成度左記書類相添へ上申ス

左記

- 「チ」式七九耗機關銃全体圖 壹部
- 全 細目名稱表 貳部
- 全 取扱法 貳部
- 全 概説 貳部
- 全 審査經過ノ概要 貳部
- 「モ」式大型拳銃全体圖 壹部
- 全 細目名稱表 貳部
- 全 取扱法 貳部

親品添付

一五四ノ



陸軍

6690

全 全

概 説  
審 査 經 過 ノ 概 要

貳 部  
貳 部

東京助川納

「モ」式大型拳銃概説

一、目的

本拳銃ハ滿洲及支那兩事變ニ於テ多數押收シタルヲ以テ現制式ノ代用トシテ使用スルコトヲ得

二、構造、機能

本拳銃ハ銃身後退反動利用ノ自動裝填ニシテ第一發ノ發射準備ハ手動ニ依ルト雖モ爾後ハ發射ノ反動ニ依リ銃身ヲ復坐セシメ火薬「ガス」ノ餘圧ヲ以テ遊底ヲ開キ薬莖ヲ蹴出シタル後遊筒ばねノ力ニ依リ遊底ヲ前進セシメ彈倉内ニ收容セル突包ヲ薬室内ニ裝填シ遊底閉鎖ト擊發準備トヲ整フルモノトス故ニ第二發以後ハ一發毎ニ引金ヲ緩メ更ニ引金ヲ引ケハ彈倉内ノ突包ヲ射尽ス迄連続發射ヲ為シ得ルモノトス

三、主要諸元次ノ通り

口径

七・六三耗

昭和十四年十一月  
陸軍技術本部



銃全長	銃匣ヲ附シタル時ノ全長	觥線長	表尺	初速	彈倉收容數	銃重量 〔除銃匣 含銃匣〕	銃匣(肩當)重量	突包重量	彈丸重量	裝藥量
約 二九五耗	約 六四五耗	約 二三八耗	約 五〇一、六〇〇米	約 四五〇米/秒	約 一〇發	約 一磅一八〇 一磅六八〇	約 五〇〇瓦	約 一〇・四〇瓦	約 五・五瓦	約 〇・五一瓦

東京清水納

陸軍

一 名 称

「モ」式大型拳銃審査経過ノ概要

昭和十四年十一月  
陸軍技術本部

二 審査ノ起源

某目的ヲ以テ独国ヨリ購入セルモノ竝テ滿洲、支那兩事變ニ於テ多數ニ押收セルモノアルニ付昭和十四年六月準備式トシテ之ヲ利用スル目的ニテ審査ヲ開始ス

三 審査ノ経過

昭和十四年六月二十七日東京陸軍兵器支隊ヨリ審査用トシテ現品ノ交付ヲ受ケ同年七月七日ヨリ十一日ニ百リ富津射場ニ於テ之カ機能及命中等ニ付試験ヲ実施ス其ノ結果次ノ如シ

機能及命中精度概ネ良好ニシテ準備式トシテ採用スルヲ適當ト認ム

以上ノ成績ニ基キ茲ニ準備式トシテ上申スルニ至ル

陸軍

新式七・九耗輕機關銃概説

昭和十四年十一月  
陸軍技術本部

一、目的

本輕機關銃ハ滿洲及支那兩事變ニ於テ相當多數押收セルヲ以テ

「モ」式突包及「チ」式突包ヲ使用スルノ外本邦製智式七・九耗突包ヲ使用シ現制式ノ代用トシテ使用シ得

二、構造、機能

本銃ハ箱彈倉（二〇発入）ヲ裝填シ発射ノ際火薬「ガス」ノ一部ヲ利用シテ逆底ヲ開キ藥莢ヲ排出シ更ニ復坐ばねノ彈撥力ニ依リ次発ノ突包ヲ裝填及発射シ自動的ニ之ヲ復行セシメ引金ヲ引キアル間ハ彈倉内ノ突包ヲ射尽ス迄連続発射シ得ルモノトス

三、主要諸元次ノ如シ

口径

七耗九二

銃全長（含肩當除肩當）

六二四〇耗  
六一六五耗

銃全重量	八匁九〇〇
射擊地上高	高姿 三九五耗 低姿 三〇五耗
照尺分匁	最大 一五〇〇米 最小 二〇〇米
彈倉重量	二〇發裝填 三二三瓦 空 八八九瓦
發射速度	約 六〇〇發/分
初速	約 七五〇米/秒
突包重量	二八・三〇瓦
彈丸重量	一〇・五七瓦
裝藥量 (三番管狀藥)	本邦製 三〇〇瓦

東京清水納

陸軍

式七九耗輕機関銃審査経過ノ概要

昭和十四年十一月  
陸軍技術本部

一名 称

式七九耗輕機関銃

ニ 審査ノ起源

某目的ヲ以テ独国ヨリ購入セルモノ竝滿洲、支那兩事變ニ於テ多数ニ押收セルモノアルニ付昭和十四年六月「モ」式実包及「チ」式実包ヲ使用スル外本邦製智式七九耗実包ヲ使用シ準制式トシテ之ヲ利用スル目的ニテ審査ヲ開始ス

三 審査ノ経過

昭和十四年六月二十七日東京陸軍兵器支廠ヨリ審査用トシテ現品ノ交付ヲ受ケ同年七月七日ヨリ十一日ニ百リ富津射場ニ於テ之カ機能及命中等ニ付試験ヲ実施ス其ノ結果次ノ如シ

命中精度不良ナルモ機能概ネ良好ナルヲ以テ準制式トシテ採

用スルヲ適當ト認ム  
以上ノ成績ニ基キ茲ニ準制式トシテ上申スルニ至ル

參 第 一 五 四 〇 號

陸技本甲第一一三號

ヲ式七、九耗輕機關銃外一點圖面竝ニ概説添付

昭和十五年二月十二日

陸軍技術本部副官 堀部 武雄

陸軍省副官 川原 直一 殿

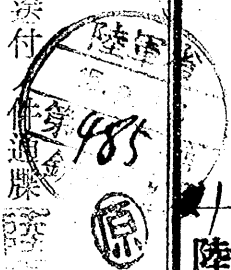
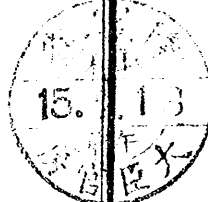
客年十二月七日附陸普番第七九一六號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝ニ概説  
左記ノ通添付ス

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上銃砲課へ直送可致ニ付承知セラレ度  
左 記

一、 式七、九耗輕機關銃 (圖面壹枚) (概説壹枚)

二、 式大型銃 (圖面壹枚) (概説壹枚)

以上各百參拾八通



陸 軍